

2025 年度 後学期 教養教育		日英区分 :日本語	
知っておきたい肺とアレルギーの話			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
LB2209	LB-1-HS0011-J	【教養教育】健康科学科目群	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
久田 剛志 [Hisada Takeshi]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次		■ ■ 単位数
			2

■ ■ 授業の目的

肺は、酸素を取り込み二酸化炭素を吐き出す臓器である。常に外界（周りの空気）と触れ合っているため、多くの病気がおこりえる。アレルギーを含めた呼吸器の疾患について、医療関係者のみならず、皆が知っておきたい肺とアレルギーの基本的知識についてやさしく解説する。呼吸器を中心として、病気の成り立ちや予防法、治療法の基礎を理解し、今後の生活、職業、研究などに役に立つ基本的な知識を身に着けることができるようになる。以上のことを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

教養教育の科目であり、専門知識がなくても理解できるレベルである。
以下を到達目標とする。
基本的な呼吸の仕組み、肺の働きについて説明できる。
代表的な呼吸器疾患の成り立ちを説明できる。
呼吸器疾患やアレルギー疾患の予防法や治療法の基本について説明できる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ◎
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力 △
D：社会的倫理観・国際性 △

この科目を受講することによって、人体の巧妙な仕組みと各種疾患が発症するメカニズムを理解することはいろいろな学部の特設教育にも通じるところがある。また、自己の健康管理にも役立つものである。

■ ■ 授業概要

呼吸機能について、また喫煙の健康への影響、呼吸器疾患とアレルギー（肺癌、結核、肺炎、睡眠時無呼吸症候群、喘息、花粉症など）をやさしく、予防法なども含めて解説する。
呼吸器学会専門医、アレルギー学会専門医、感染症専門医である教員が、その実務経験を活かして授業を行う。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義形式が主体である。

■ ■ 授業スケジュール

全担当：久田剛志【実務家教員】

- 第1回 肺の働き、呼吸の役割
第2回 タバコの影響・・・軽いタバコならいいのでしょうか？ 新型タバコは？
第3回 タバコ病である肺気腫（COPD）を知り、あとで後悔しないようにしよう
第4回 肺がんを知り、予防に心がけよう
第5回 睡眠中に息がとまってないですか？ 睡眠時無呼吸症候群
第6回 結核、なぜマスコミで騒がれたのでしょうか？
第7回 まとめ①
第8回 肺炎・インフルエンザ 超高齢社会において
第9回 アレルギーは、どうしておこるのでしょうか？
第10回 喘息はなぜおこるのでしょうか？ 予防と治療は？
第11回 花粉症を何とかするには？
第12回 鳥の飼い主などを襲う息苦しい病気 - 過敏性肺炎
第13回 環境や職業によっておこる肺の病気？
第14回 食事による病気の予防！ 呼吸器疾患やアレルギーにも・・・
第15回 まとめ②
第16回 試験
※ 予定が変更になる場合には、随時連絡します。

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

毎回資料またはプリントを用意する。Moodleにより予習また復習し、知識を確実なものにして欲しい。
毎回のリアクションペーパーについて記載し提出する。
試験は記述式問題が中心であり、プリント、資料内容を理解していれば解答できる。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

各回で課せられたリアクションペーパーの記述内容および講義内容に関して課される最終筆記試験の結果などを総合的に評価する。
基本的理解 A・B・C
レポートの適切な記載 A・B
履修の手引きに記載されたルーブリックに基づいて行われる。

最終レポート（70％）、各授業における課題（30％）（A,B,C,D）で評価する。

S評価、90点以上かつ受講者のなかで特に優れていると判断される者、A評価、80点以上でS評価以外の者、B評価、70-79点の者、C評価、60-69点の者、D評価、60点に満たない者。ただし試験問題の難易度によって評価を調整する場合もある。

■ ■ 受講条件（履修資格）

全学部生

■ ■ メッセージ

肺の病気は、年齢を問わず発症し、様々なものがある。病気の本質とその予防法を理解し、健康な生活を送れるように今から努めよう。新しい健康に関する話題も随時取り入れてやさしく解説していく。

■ キーワード

肺、呼吸器、喫煙、肺がん、結核、アレルギー、喘息、睡眠時無呼吸症候群、 ω 3脂肪酸、アクティブラーニング、実務経験

■ この授業の基礎となる科目

■ 次に履修が望まれる科目

■ 関連授業科目

■ 教科書

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

Moodleから講義で使用する資料、プリント等を見ることができる。必要に応じてプリントを配布する。

■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=2552>

■ 授業言語

使用言語：「英語でもできる」

配布資料：「英語でもできる」

2025 年度 後学期 教養教育			日英区分 :日本語
がん予防・治療・ケア			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
LB2441	LB-1-HS0002-J	【教養教育】健康科学科目群	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
近藤 由香 [Kondoh Yuka], 小澤 厚志 [Ozawa Atsushi]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次		■ ■ 単位数
			2

授業の目的

学生は、がん予防・治療・ケアについての基本的な知識を、自分および身近な周囲の人の医療行動に役立てるために、がん予防・治療・ケアについての基本的な知識を学ぶ。
学生は、学んだがん予防・治療・ケアについての基本的な知識を、自分および身近な周囲の人の医療行動に役立てる必要性を理解する。

授業の到達目標

1. 日本や群馬県におけるがん対策について説明できる。
2. がんの疫学・がん予防に必要な生活習慣を説明できる。
3. がんの治療であるがん薬物療法、放射線療法を説明できる。
4. がん治療に伴うケアの方法を説明できる。
5. がん治療における意思決定支援の必要性を説明することができる。
6. 緩和ケアの概念の変遷から必要性を説明することができる。
7. がん看護における家族ケアの必要性と方法を説明することができる。
8. がんや治療に伴う様々なストレスを緩和する方法について説明できる。

ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ☐
- B：論理的・創造的思考力 ☐
- C：コミュニケーション能力 ☐
- D：社会的倫理観・国際性 ☐

授業概要

本科目は、医師、看護師の実務経験のある教員が、実務経験を活かして授業を行う。
第1回、4～15回は看護師の実務経験がある近藤由香が担当する。第2、3回は、医師である小澤厚志が担当する。
がん医療の動向、がん医療をめぐる一次・二次・三次予防の意味を知る。がん発病にいたるメカニズムと主な治療を理解し、がんを予防するための生活習慣について学ぶ。また、がんの早期発見のための検診や自己チェックの方法について理解を深める。それをもとに自分自身の生活を振り返りがんを予防する生活習慣を獲得できるような動機付けとする。さらに治療選択における患者と医師・看護師との関わり、がん薬物療法・放射線療法を受ける患者の症状マネジメント、患者の身体・心理的变化を知り、がん治療におけるセルフマネジメントのあり方を考える。さらに終末期における医療を受ける場、緩和ケア・ホスピスケアについての知識を深め、がん医療・ケアについて考える。

授業の形式（授業方法）

講義と演習形式である。演習では、学生同士で、がん対策（がん予防教育など）、がんサバイバーへの支援などについて意見交換する。

授業スケジュール

No.	内容
第1回	オリエンテーション、ガイダンス 10/2 近藤由香（実務経験のある教員による授業）
第2回	がん発症メカニズムについて学ぶ 10/9 小澤厚志（実務経験のある教員による授業）
第3回	がんの診断、検査について学ぶ 10/16 小澤厚志（実務経験のある教員による授業）
第4回	がんの疫学、がん医療をめぐる国・県の政策について学ぶ 10/23 近藤由香
第5回	がん予防のための生活習慣について学ぶ 10/30 近藤由香
第6回	がん治療：がん薬物療法とケアについて学ぶ 11/13 近藤由香
第7回	がん治療：放射線治療とケアについて学ぶ 11/20 近藤由香
第8回	がん治療の意思決定について考える 11/27 近藤由香
第9回	グループワーク 12/4 近藤由香
第10回	グループワーク 12/11 近藤由香
第11回	プレゼンテーション 12/18 近藤由香
第12回	がんに伴うストレスを緩和し免疫を高める方法を学ぶ 1/8 近藤由香
第13回	終末期にある家族のケアについて学ぶ 1/15 近藤由香
第14回	緩和ケア、ホスピスケアについて学ぶ 1/22 近藤由香
第15回	まとめ 1/29 近藤由香

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技

講義中に課題や参考図書を提示する。復習を行いレポートを作成すること。
自己の考えが述べられているレポートを期待します。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

- ・課題レポート（70点）A・B・D
- ・プレゼンテーション（30点）A・B・C

出席日数が3分の2に満たないものは評価を受けることができないので注意すること。
成績の評価は、S（90点～100点）、A（80点～89点）、B（70点～79点）、C（60点～69点）、D（59点以下）の5段階とし、S、A、B及びCを合格とし、Dを不合格とする。問題の難易度により、点数を調整する場合がある。
評価はルーブリックに基づいて行われる。

＜評価担当者＞
・課題レポート：近藤由香
・プレゼンテーション：近藤由香

■ ■ 受講条件（履修資格）

特になし

■ ■ メッセージ

積極的な質問を歓迎します。

■ ■ キーワード

がん予防、セルフケア、がん治療、緩和ケア、実務経験、アクティブラーニング

■ ■ この授業の基礎となる科目

特になし

■ ■ 次に履修が望まれる科目

特になし

■ ■ 関連授業科目

特になし

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

なし

■ ■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

Moodleで、学生への連絡、教員への質問、レポートの提出などを行うことができます。
<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/GU/index.php>

■ ■ 授業言語

教科書・資料：英語でもできる
講義・討論：英語でもできる

2025 年度 前学期 教養教育			日英区分 :日本語
生命保険の仕組みと利活用を考える			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
LB1279	LB-1-IS0041-J	【教養教育】総合科目群	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
杉山 学 [Sugiyama Manabu], 天野 智英 [Amano, Tomohide]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次		■ ■ 単位数
			2

■ ■ 授業の目的

社会保障制度の仕組みや自助努力で将来に備えることの重要性を理解し、リスクを回避・抑制する手段の一つである生命保険の仕組み・役割等について学ぶことを通じて、これからの持続可能な社会を営む一員として役に立つ知識・考え方の習得を目指す。

■ ■ 授業の到達目標

社会保障制度の概要やその主な保障内容を理解し、説明することが出来る。
現代生活に潜むリスク、生命保険の意義・役割、基本的な仕組みを理解し、説明することが出来る。
大学生として、公的保障と私的保障のあるべき姿について、自分なりの考察を加えて整理し、説明することが出来る。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

A：諸科学についての基礎的知識と理解 ◎
B：論理的・創造的思考力 ◎
C：コミュニケーション能力 ○
D：社会的倫理観・国際性 ○

■ ■ 授業概要

この授業では、まず私たちを取り巻く経済環境について概観する。
その理解の上に立ち、少子高齢化社会の一層の進展により、表面化している社会保障制度の諸課題を背景に、公的保障と私的保障の多様なあり方や、私的保障（生命保険）の意義、自助努力の必要性や有用性について理解し、考察を深めていく。
また、グループ単位で課題分析・解決策等を議論し、提言としてまとめあげるグループディスカッションも予定している。
全ての講義において、大手生命保険会社の役員・管理職等を歴任し、生命保険事業全般に深く精通した幅広い知識・経験・実績を有する講師陣が担当する。
経験談や最新の情報提供も随所に織り込み、理論と実践の両面から理解を深めていく。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義と演習（グループディスカッション）。
演習（グループディスカッション）は2回程度、少人数に分かれて与えられたテーマに対する解決策の議論等を行う。

■ ■ 授業スケジュール

1：オリエンテーション・総論
2：生活設計とリスク管理
3：生活設計と社会保障
4：公的保障と生保(死亡・医療)
5：公的保障と生保(老後・年金)
6：隣接業界・生保の組織・業務
7：グループディスカッション①
8：生保商品の変遷・動向
9：生保の資産運用
10：生活設計と資産運用
11：生命保険と税金
12：トラブル・災害対応とSDG'sへの取り組み
13：グループディスカッション②
14：グループディスカッション② 発表
15：総括（小テスト）
※受講生の理解度や履修人数によっては、内容・順番を見直す場合があります。

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。
講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技

授業で使用した資料に基づいて一時間程度の復習を行うことが、内容理解において必要です。復習として小レポートの課題を行い提出する。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法） 及び 関連するディプロマポリシー

<対面授業の場合>
授業への参加度+（受講回によって実施）小レポート等の内容」70点（A,B,C,D）
「最終試験得点」30点（A,B,D）で評価します。
最終試験は学期末に実施します。下記の観点から評価を行います。
・社会保障制度の概要の理解
・生命保険の意義・役割・仕組み等の理解
小レポート（A,B,D）、グループディスカッション（B,C）では、課題に対して自分なりにどのように考察し、それを説明できているかを評価します。
<オンライン授業となった場合>
毎回の課題提出を基本に、受講状況を見ながら、総合的に評価することとします。
最終試験は実施ませんが、商品提案ディスカッション、及び、最終提出レポートでは、課題に対して自分なりにどのように考察し、それを説明できているかを評価します。

■ ■ 受講条件（履修資格）

■ ■ メッセージ

少子高齢化の進展を踏まえた社会保障制度の改革状況について、メディア等を通じて情報収集し、課題認識の向上を図ると、より講義が楽しく理解できるようになると考えます。
その上で、生活設計・生命保険について学ぶことは、それぞれの人生について考える大変有益な機会にもなると考えます。

■ ■ キーワード

公的保障と私的保障，公助と自助，生活設計，リスク管理，実務経験のある教員

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

毎回の講義時に資料を配布する。

■ ■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=2588>

■ ■ 授業言語

教科書・資料：日本語のみ
講義・討論：日本語のみ

2025 年度 前学期 医学部 保健学科		日英区分 :日本語
看護学原論		
時間割コード	ナンバリング	科目分野
HB0100	HB-1-SN0001-J	
担当教員（ローマ字表記）		
上星 浩子 [Jouboshi, Hiroko], 佐藤 由美 [Satoh Yumi], 王 妍穠 [Oh,]		
対象学生	対象年次	単位数
	1年次 ～	1

授業の目的

- ・看護学の入門として、看護と看護学の必要性を理解できる。
- ・看護学の観点から、人間、健康（病気の過程も含む）、健康を維持向上させるための環境、それらを取り巻く看護の役割と機能について、理解できる。

授業の到達目標

- 1.看護について考えることができる。(DP の1,2,3,4)
- 2.看護の概念である人間、環境、健康、看護とそれらの相互関係について説明できる。(DP の1,2,3)
- 3.看護の歴史の変遷を知り、看護学の発展について説明する。(DP の1,2)
- 4.保健医療システムの機能と看護実践、看護の専門性について説明できる(DP の1,2,3)
- 5.看護における倫理について説明する。(DPの1,2)
- 6.看護学の観点より、人間、健康（病気の過程も含む）、健康を維持向上させるための環境、それらを取り巻く看護の役割と機能について説明できる。(DP の1,2 ,3 ,4 ,5 ,6)

ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ◎
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力 ◎
D：社会的倫理観・国際性 △
E：高度な専門的知識と技術、リーダーシップ ○
F：倫理観 ○
G：問題発見能力と問題解決能力 ○
H：協働力 ◎
I：グローバルな対応力 △
J:自己研鑽力 ○
(◎：特に重視する、○：重視する、△：評価対象、－：評価対象としない)

授業概要

看護学および看護実践の基盤となる概念、看護の歴史の変遷や社会における看護職の役割、保健医療福祉分野における看護の専門性、看護倫理、看護に関係する対象との人間関係などに関して学習する。

また、療養者を含めた地域で暮らす人々を看護の対象と捉え、地域の人々の生活と健康を多角的にアセスメントする方法を学習する。

10年以上の臨床の実務経験のある教員が、その実務経験を活かして、授業を行う。

授業の形式（授業方法）

講義・演習

テキスト、講義資料、文献等を用いて講義する。

さらに地域、社会の話題にも目を向けて、これからの看護への期待と展望を持てるようにする。

対話や討論を取り入れて、学生が主体的に授業に取り組めるように配慮する。

授業スケジュール

No.	内容
第1回	4/11 <看護の基本> ①：ガイダンス （上星浩子） 看護とは何か、ディスカッションを通して考える機会とし、大学での学び、看護教育における目標を知り、学習の動機付けとする。 （実務経験のある教員による授業）
第2回	4/18 <看護の基本> ②：看護の概念、理論 （上星浩子） バージニア・ヘンダーソンの『看護の基本となるもの』を通して、看護独自の機能、基本的看護について解説する。また、看護の定義、看護理論について概説する。 （実務経験のある教員による授業）
第3回	4/25 <看護の基本> ③：健康・環境と看護 （上星浩子） 健康の定義、健康の考え方、健康生成、健康への支援について解説する。また、ナイチンゲールの『看護覚え書』を通して、環境と看護について解説する。 （実務経験のある教員による授業）
第4回	5/9 <看護の基本> ④：看護の対象 （上星浩子） 看護の対象について、看護の対象を理解するための基盤となる人間の特性や対象理解に役立つ理論について解説する。 （実務経験のある教員による授業）
第5回	5/16 <看護の基本> ⑤：看護の歴史 （上星浩子） 国内外における看護の歴史の変遷について解説し、看護の発展過程を教授する。 （実務経験のある教員による授業）
第6回	5/23 <看護の基本> ⑥：看護における関係性の構築、対人関係 （上星浩子） 対象者－看護者関係の理論を基に、対人関係を形成、発展させる技術であるコミュニケーションについて教授する。 （実務経験のある教員による授業）
第7回	5/30 <看護の基本> ⑦：保健医療システム、看護の専門性、卓越性、看護実践 （上星浩子） 保健医療システムの機能とシステム内で機能する看護について解説する。また、様々な専門職かなる医療チーム内での看護の役割を通して、看護の専門性と卓越性、臨床判断を伴う看護実践について教授する。 （実務経験のある教員による授業）
第8回	6/6 <看護の基本> ⑧：看護活動に伴う倫理的判断と行動 （上星浩子） 道徳的判断の基準に基づき、学生の身近な事例から倫理について解説する。その後、看護実践における倫理、患者および看護者の倫理的権利と責務について学生間の討論を通して教授する。 （実務経験のある教員による授業）

第9回	6/13 <地域社会の人々の生活と健康>①：後半の授業のガイダンス（佐藤由美） 学生各自が出身市町村の特徴をあげ、それらの健康との関連を考える。その発表・共有を通じて、地域社会における人々の生活が健康に関係していることを理解させる。後半授業の進め方を提示する。 (実務経験のある教員による授業)
第10回	6/20 <地域社会の人々の生活と健康>②：人間の健康と、生活、環境との関連（佐藤由美） 人間の健康と生活、環境との関係について、様々な看護モデルを用いて解説する (実務経験のある教員による授業)
第11回	6/27 <地域社会の人々の生活と健康>③：地域の人々の生活と健康をアセスメントする視点（佐藤由美） コミュニティ・アズ・パートナーモデルを基に、地域の生活する人々とそれを取り巻く環境の種類、及びアセスメントの視点・方法について教授する。 (実務経験のある教員による授業)
第12回	7/4 <地域社会の人々の生活と健康>④：地域の人々の生活と健康をアセスメントする視点（佐藤由美） コミュニティ・アズ・パートナーモデルを基に、地域の生活する人々とそれを取り巻く環境の種類、及びアセスメントの視点・方法について教授する。 (実務経験のある教員による授業)
第13回	7/11 <地域社会の人々の生活と健康>⑤：地区踏査の方法（佐藤由美） 地区踏査の目的、視点、手順、及び留意点について教授する。 (実務経験のある教員による授業)
第14回	7/18 <地域社会の人々の生活と健康>⑥：地区踏査計画の立案（佐藤由美） 前回の授業内容を活用し、地区踏査計画を立案させる。 (実務経験のある教員による授業)
第15回	7/25 <地域社会の人々の生活と健康>⑦：「生活を理解する実習」オリエンテーション（佐藤由美） 後続の「生活を理解する実習」について、実習目的・目標、実習方法を提示し、本科目の学習内容の整理と実習に向けた準備を促す。 (実務経験のある教員による授業)
第16回	8/1 筆記試験

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

講義で配布した資料、教科書、また講義に関連した文献、書籍を読むこと、レポート作成等のため準備

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

筆記試験(AEFGH)、レポート課題(BEFGH)を総合的に評価する。前半（1～8回）60%、後半（9～15回）40%の配点とする。ただし、前半・後半で各々50%以上得点できない場合は不可とする。成績評価は、S（90-100点）、A（80-89点）、B（70-79点）、C（60-69点）、D（59点以下）とし、S、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。ただし問題の難易度によって点数を調整する場合がある。

<評価担当者>

・レポート・筆記試験：〈前半〉上星浩子、〈後半〉佐藤由美
前半・後半を統合して評価する：上星浩子・佐藤由美

<成績の発表方法>

・成績の発表は、学期ごとに準備が整い次第（前期9月末）、群馬大学教務システムより各自で確認できる。
・成績に疑問が生じた場合は、履修手引の「成績評価確認申請に関する申し合わせ」に記載している正規の手続きをもって申し立てをすることができる。詳細な内容を知りたい場合は、オフィスアワー等を利用して個別に対応する

■ ■ 受講条件（履修資格）

看護学専攻1年生

■ ■ メッセージ

看護学についての最初の専門科目です。各自の考えや意見を膨らませて、疑問や期待を話し合い、専門的な視点を高めていきましょう。
早期体験実習に伴い、開講時間が違いますので確認してください。

■ ■ キーワード

人間・健康・環境・看護の歴史と未来、看護教育、実務経験、アクティブラーニング

■ ■ この授業の基礎となる科目

教養科目・共通基礎科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

コミュニケーション論、生活援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護学方法論演習Ⅰ・Ⅱ、生活を理解する実習

■ ■ 関連授業科目

看護早期体験実習、基礎看護学実習、生活を理解する実習

■ ■ 教科書

教科書1	ISBN	978-4-260-03862-1				
	書名	看護学概論				
	著者名	茂野香おる著者代表	出版社	医学書院	出版年	2020
	備考					
教科書2	ISBN	978-4818022140				
	書名	看護覚え書き：本当の看護とそうでない看護				
	著者名	Nightingale, Florence,小玉, 香津子, 尾田, 葉子,フロレンス・ナイティンゲール著；小玉香津子, 尾	出版社	日本看護協会出版会	出版年	2019.
	備考					

■ ■ 参考書

参考書1	ISBN	978-48180-1996-6				
	書名	看護の基本となるもの				
	著者名	Virginia Henderson	出版社	日本看護協会出版会	出版年	2022
	備考	湯横ます・小玉香津子訳 第6刷				

教科書・参考書に関する補足情報

コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=4540>

授業言語

使用言語：「英語でもできる」
配布資料：「英語でもできる」

2025 年度 前学期 医学部 保健学科		日英区分 :日本語
血液検査学 I		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
HB0328	HB-2-LS0012-J	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
齋藤 貴之 [Saitoh Takayuki]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	2年次 ～	2

■ ■ 授業の目的

この講義では正常血球の種類と機能、分化・成熟の様式、造血器の構造と機能を理解し、これに基づき赤血球系疾患、白血球系疾患、血小板および凝固異常症の病態を理解できるようにする。これらの疾患の診断に必要な血液検査法の理論、さらに治療法についても理解できるようにする。

血液学の専門分野で基礎力をつけ、保健医療のチームワークの担い手になるような教育を図る。

本講義は、保健学科カリキュラムポリシー1.の「全人的医療の担い手としての人間性の涵養と、専攻分野で必要な基礎力の育成を図る教育」と2.「専門教育では基礎から臨床に亘る階層的知識の積み上げを図るとともに、先端の保健医療の学習にも配慮する教育」と主に関連します。保健学科ディプロマポリシー1.保健医療の中核を担うために必要な専門的知識と技術を備え、人間の尊厳を重んじる心を持つ者

2.保健医療の諸課題に対し柔軟な思考、的確な判断によって問題解決ができる者に主に関連します。

■ ■ 授業の到達目標

1. 血液学の基本的概念を習得し、説明できる。(DP1)
2. 血液疾患の病態生理を理解し、説明できる。(DP1, DP2)
3. 血液疾患の検査法や治療法を理解し、説明できる(DP1, DP2)

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

この講義は主に保健学科のDP1及び3に関連している。

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
- B：論理的・創造的思考力 ○
- C：コミュニケーション能力 -
- D：社会的倫理観・国際性 -
- E：保健医療の知識（DPの1に関連） ○
- F：保健医療の技術（DPの1に関連） ○
- G：チーム医療の理解（DPの3に関連） -
- H：問題解決能力（DPの2, 4に関連） -

■ ■ 授業概要

講義では、血液学の基本的概念を理解できるようにします。教員は講義を行い、学生は小テストやアンケートに答えるようにして、積極的に講義に参加するようにします。実務経験のある教員が講義を行います。

血液学を専門とする医師および臨床検査技師が、知識や経験を活かした講義を行います。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義形式、映像も使用します。第1回は総論として血液の成分、血球の種類、造血幹細胞からの分化・成熟様式を、第2回より第15回までは各論として正常赤血球、白血球、血小板の機能、止血機構及びそれぞれの異常に基づく各種血液疾患の概要を解説する。質問も広く受け付けます。双方向の授業を目指します。

■ ■ 授業スケジュール

講義形式で授業する。必要に応じてプリント、映像を用いて解説する。

スケジュールは以下のとおりです。※実際のスケジュールは変更する場合もあります。

- 第1回（齋藤）血液総論
- 第2回（齋藤）赤血球総論 赤血球 赤血球の形態、機能 および代謝を解説
- 第3回（齋藤）赤血球疾患-1 貧血の定義と分類
- 第4回（齋藤）赤血球疾患-2 貧血各論 血 P. 221-234
- 第5回（齋藤）白血球総論 中間テスト(1)
- 第6回（齋藤）骨髄異形成症候群 慢性骨髄増殖性腫瘍
- 第7回（齋藤）急性白血病-1
- 第8回（齋藤）急性白血病-2
- 第9回（齋藤）悪性リンパ腫
- 第10回（齋藤）多発性骨髄腫その他 中間テスト(2)
- 第11回（齋藤）凝固検査① 血小板
- 第12回（齋藤）凝固検査② 凝固と線溶
- 第13回（齋藤）凝固検査③ 血小板の異常
- 第14回（齋藤）凝固検査④ 凝固・線溶系の異常
- 第15回（齋藤）まとめ

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

1. 病気がみえる vol.5 血液や臨床検査学講座 血液検査学第2版 の該当ページで予習、復習を行う。
2. LMSの小テストに取り組む。
3. レポートを提出する。

- 第1回 血液総論 小テスト
- 第2回 赤血球総論 小テスト
- 第3回 赤血球疾患-1 貧血の定義と分類 小テスト 貧血の分類のレポート
- 第4回 赤血球疾患-2 貧血各論 小テスト
- 第5回 白血球総論 中間テスト(1) 中間テストの復習
- 第6回 骨髄異形成症候群 慢性骨髄増殖性腫瘍(MPN) 小テスト MPNの分類のレポート
- 第7回 急性白血病-1 小テスト
- 第8回 急性白血病-2 小テスト 白血病の分類のレポート
- 第9回 悪性リンパ腫 小テスト
- 第10回 多発性骨髄腫その他 中間テスト(2) 中間テストの復習 悪性リンパ腫、多発性骨髄腫のレポート
- 第11回 凝固検査① 血小板 小テスト
- 第12回 凝固検査② 凝固と線溶 小テスト

第13回 凝固検査③ 血小板の異常 小テスト
第14回 凝固検査④ 凝固・線溶系の異常 小テスト
第15回 まとめ

成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

小テスト、レポート、中間試験、期末試験結果で評価する。教科書を中心に講義した範囲内で出題する。
小テスト、レポート：成績20% A, B, E, F
中間テスト、期末テスト：成績80% A, B, E, F

出席日数の3分の1以上を欠席した者は期末試験を受けられないことがある。
評価は、S(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、D(59点以下)とし、S、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。ただし、Sは上位1割以内とする。また、試験問題の難易度によってS、A、Dの評価を調整する場合もある。

- 1. 血液学の基本的概念を習得し、説明できる。(DP1) 2割 A, B, E, F
- 2. 血液疾患の病態生理を理解し、説明できる。(DP1, DP2) 2割 A, B, E, F
- 3. 血液疾患の検査法や治療法を理解し、説明できる(DP1, DP3) 6割 A, B, E, F

受講条件（履修資格）

保健学科検査技術科学専攻2年生

メッセージ

1回の講義の内容が多く専門的です。最新の情報も紹介します。不明の点があれば質問はメールでも受け付けます。
時間外でも質問にきてください。歓迎します。
血液学は最高に面白く、血液学の担い手になることを期待しています。
LMSで講義内容を確認してください。

キーワード

血液学、貧血 白血病 血小板減少 血液凝固異常 実務経験 アクティブラーニング

この授業の基礎となる科目

化学1、化学2、生物1、生物2

次に履修が望まれる科目

血液検査学実習

関連授業科目

基礎医学I 血液検査実習

教科書

教科書1	ISBN	9784263223819					
	書名	血液検査学					
	著者名	奈良信雄 [ほか] 著,奈良, 信雄,小山, 高敏,東, 克巳,近藤, 弘,三村, 邦裕,小河原, はつ江,西岡, 淳二,	出版社	医歯薬出版	出版年	2021	
	備考						

教科書2	ISBN	978-4896329223					
	書名	病気がみえる vol.5 血液 第3版					
	著者名	医療情報科学研究所編集	出版社	Medic Media	出版年	2023	
	備考						

参考書

参考書1	ISBN	9784830614170					
	書名	血液細胞アトラス					
	著者名	三輪史朗, 渡辺陽之輔共著,三輪, 史朗,渡辺, 陽之輔,	出版社	文光堂	出版年	2004	
	備考						

参考書3	ISBN					
	書名					
	著者名		出版社	文光堂	出版年	
	備考					

教科書・参考書に関する補足情報

コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=4634>

授業言語

使用言語：「英語でもできる」
配布資料：「英語でもできる」

2025 年度 前学期 医学部 保健学科		日英区分 :日本語
理学療法学概論		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
HB0523	HB-1-PT0007-J	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
山路 雄彦 [Yamaji Takehiko]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	1年次 ～	2

■ ■ 授業の目的

医療における理学療法の意義，理学療法の概要，医療専門職としての使命と倫理について理解することを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

理学療法の臨床や研究活動などの概要を説明できる。医療専門職としての使命や倫理について説明できる。（DPの1～6）

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力○
D：社会的倫理観・国際性 ○
E：高度な専門知識と技術、リーダーシップ ◎
F：倫理観 ○
G：問題発見能力と課題解決能力 –
H：協働力 –
I：グローバルな対応力 –
J：自己研鑽力 –
(◎:特に重視する、○:重視する、△:評価対象、-:評価対象としない)

■ ■ 授業概要

前半は理学療法の概要を学習し，医療専門職としての使命と倫理について理解する。また，大学で理学療法を学ぶ意味と主体的学習態度を習得する。
後半には，理学療法学専攻の教員（理学療法士）の臨床や研究活動の紹介をする。また，調整可能であれば附属病院リハビリテーション室での臨床見学を行う。
（理学療法の実務経験のある教員が、その実務経験を活かして授業を行う。）

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義および附属病院見学実習
臨床における事例に基づいたディスカッション
病院見学後のグループ学習及びプレゼンテーション

■ ■ 授業スケジュール

No.	内容
第1回	オリエンテーション・序論（山路雄彦）
第2回	理学療法とリハビリテーション（山路雄彦）
第3回	理学療法の対象
第4回	理学療法の対象（発表）（山路雄彦）
第5回	理学療法士の役割（山路雄彦）
第6回	理学療法の専門領域（1）（山上徹也）
第7回	理学療法の専門領域（2）（小林匠）
第8回	理学療法の専門領域（3）（中澤理恵）
第9回	理学療法の専門領域（4）（佐藤江奈）
第10回	附属病院リハビリテーション部の見学（1）（山路雄彦）
第11回	附属病院リハビリテーション部の見学（2）（山路雄彦）
第12回	附属病院リハビリテーション部の見学（発表）（山路雄彦）
第13回	理学療法の専門領域（5）（朝倉智之）
第14回	理学療法の専門領域（6）（加藤大悟）
第15回	まとめとレポート作成（山路雄彦）

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

授業で配布した資料の内容を再確認する。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

レポート：理学療法の対象（25点） A・B・C・D・E・F

レポート：見学の振り返り（25点） A・B・C・D・E・F

レポート：理学療法の専門領域（50点） A・B・C・D・E・F

3分の1以上を欠席した者は、基本的にレポートを受理できない。評価は、S(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、D(59点以下)とし、S、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。

■ ■ 受講条件（履修資格）

理学療法専攻1年生

■ ■ メッセージ

1年次に開講される数少ない専門科目です。理学療法に関する疑問など気軽に質問してください。

■ ■ キーワード

リハビリテーション 倫理 医療専門職 ICF 実務経験 アクティブラーニング

■ ■ この授業の基礎となる科目

チームワーク原論 全人的医療論 教養教育全般

■ ■ 次に履修が望まれる科目

理学療法専門科目全般

■ ■ 関連授業科目

チームワーク原論 全人的医療論

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

特に定めない 関連資料を配布する

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=4696>

■ ■ 授業言語

使用言語：「日本語のみ」

配布資料：「英語でもできる」

2025 年度 前学期 医学部 保健学科		日英区分 :日本語
作業療法管理学		
時間割コード	ナンバリング	科目分野
HB0724	HB-4-OT0001-J	
担当教員（ローマ字表記）		
田中 浩二 [Kohji Tanaka]		
対象学生	対象年次	単位数
	4年次 ～	2

授業の目的

本科目では、1年時の「作業療法学概論」で学んだ知識を基盤として、組織・サービスの管理（マネジメント）及び作業療法士としてのキャリア形成に関する諸テーマについて学習する。また、後半はオムニバス形式で作業療法士の資格を有する本学教員の実践・研究経験を踏まえて、様々な分野の最新の作業療法実践のトピックについて学習します。

本科目は保健学科カリキュラムポリシー1.「保健医療専門職としての倫理観を涵養し、専攻分野で必要な基礎力を育成する教育」、2.「保健医療専門職として主体的に行動し、総合的な判断ができる人材を育成する教育」、3.「チーム医療を推進する一員としての意識と円滑な協働関係を築く力を育成する教育」、4.「多様な地域社会の中で、グローバルな視点から保健医療の諸課題に対応できる人材を育成する教育」及び、保健学科ディプロマポリシー1.「保健医療の中核を担うために必要な専門的知識と技術を備え、人間の尊厳を重んじる心を持つ者」、2.「保健医療の諸課題に対し柔軟な思考、的確な判断によって問題解決ができる者」、3.「チーム医療を担う自覚を有し、関係する人々との相互理解と円滑な協働関係が築ける者」、4.「社会の多様性・グローバル化に対応できる自己開発力と意欲を持ち、人々の健康に貢献する者」と関連します。

授業の到達目標

- ①作業療法部門の管理（マネジメント）の基礎的事項を理解することができる。（DPの1,2,3,4）
②専門職としてのキャリア形成について、理解することができる。（DPの1,2,3,4）

ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力 ○
D：社会的倫理観・国際性 ○
E：保健医療の知識（DPの1に関連） ○
F：保健医療の技術（DPの1に関連） ○
G：チーム医療の理解（DPの3に関連） ○
H：問題解決能力（DPの2、4に関連） ○

授業概要

1年次の「作業療法概論」で学んだ知識を基盤として、本科目では組織・サービスの管理（マネジメント）及び「職業人としてのキャリア形成」に関するテーマについて学習します。また、後半では、次世代の作業療法士として必要な、最新の作業療法実践のトピックについても学習します。

授業の形式（授業方法）

講義：スライドを使った講義を行います。LMSを用いて、資料を配付します。
演習：作業療法士におけるマネジメントの実践例について、個人ワーク、ディスカッションを行います

授業スケジュール

No.	内容
第1回	オリエンテーション 管理学①「作業療法におけるマネジメント」 講義 田中
第2回	管理学②「作業療法におけるセルフマネジメント」 講義 田中
第3回	管理学③「作業療法におけるチームマネジメント」 講義 田中
第4回	管理学④「作業療法における管理運営」 講義 田中
第5回	管理学⑤「社会保障制度」 講義 田中
第6回	管理学⑥「作業療法におけるマネジメントの実践例1」 演習 田中
第7回	管理学⑦「作業療法におけるマネジメントの実践例2」 演習 田中
第8回	管理学⑧「作業療法におけるマネジメントの実践例3」 演習 田中
第9回	管理学⑨「作業療法におけるマネジメントの実践例4」 演習 田中
第10回	発展的トピック①：デジタルアクセシビリティアドバイザー制度について 講義 田中
第11回	発展的トピック②：職業としての作業療法士 小テスト：作業療法の診療報酬・介護報酬（テスト前に資料を配布し、精読の時間をもちます）

	講義 李
第12回	発展的トピック③：間接支援としてのヘルプ・トレーニング 講義 十枝
第13回	発展的トピック④：頸椎症患者の職業復帰に関連する要因 講義 野口
第14回	発展的トピック⑤：病後の自動車運転再開のためのリハビリテーション 講義 秋山
第15回	発展的トピック⑥：「高齢期と作業」 講義 下田

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

次回講義の関連資料の予習

講義終了後の課題の提出

■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

成績評価は各講義終了後の課題、レポートで評価します。

講義終了後の課題：40％ レポート：60％

出席日数の3分の1以上を欠席したものは成績評価を受けられないことがあります。

評価は、S(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、D(59点以下)とし、S、A、B、Cを合格、Dを不合格とします。また、課題の難易度によって評価を調整する場合があります。

①作業療法部門の管理（マネジメント）の基礎的事項を理解することができる。（DPの1,2,3,4）60点 E,F,G,H

②専門職としてのキャリア形成について、理解することができる。（DPの1,2,3,4）40点 E,F,G,H

■ 受講条件（履修資格）

作業療法学専攻 4年生

■ メッセージ

前半は管理（マネジメント）について、後半は様々な分野の最新の作業療法実践のトピックについて学びます。

本講義では皆さんの心理的安全性に配慮します。講義に積極的に参加し、発言してください。

■ キーワード

専門職、管理運営、キャリア形成、組織、作業療法実践、実務経験

■ この授業の基礎となる科目

作業療法学概論

■ 次に履修が望まれる科目

作業療法総合臨床実習

■ 関連授業科目

■ 教科書

■ 参考書

参考書1	ISBN	978-4-260-04785					
	書名	標準作業療法学：専門分野：OT					
	著者名	矢谷, 令子,能登, 真一,矢谷令子 シリーズ監修,能登真一 編集,能登真一 [ほか] 執筆	出版社	医学書院	出版年	2021.	
	備考						

参考書2	ISBN	9784260027816					
	書名	作業で結ぶマネジメント：作業療法士のための自分づくり・仲間づくり・組織づくり					
	著者名	澤田辰徳編集	出版社	医学書院	出版年	2016	
	備考						

■ 教科書・参考書に関する補足情報

資料は随時配布し、LMSに掲載します。

■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=4728>

■ 授業言語

教科書・資料：「英語でもできる」
講義・討論：「英語でもできる」